MASPRO

屋外(内)用　ブースター　(家庭用)

取扱説明書

VU BOOSTER
増幅チャンネル FM・ch1～62
VUB33AG

UHF BOOSTER
増幅チャンネル ch13～62
FM・VHFミキサー内蔵
UB33AG

DC15V方式

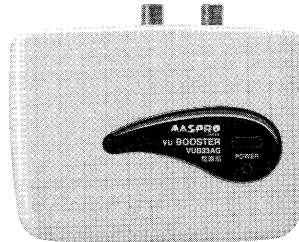
F型端子　33dB型

◀◀◀ UHF自動利得調整 ▶▶▶
オートブースター

地上ディジタル放送の送信出力レベルが上がったときに、利得調整がいらない高性能ブースターです。

VUB33AG
増幅部：屋外(内)用

75 Ωケーブルの太さに合わせて防水キャップを切ってください。

地上ディジタル放送
推奨品

VUB33AG 電源部：屋内用
※屋外では使用しないでください。

DIGITAL
ディジタル放送対応

このマークは，各種のディジタル放送を，より高画質で見るために，妨害電波の影響を受けにくい，高いシールド性能を備えた機器にマスプロ電工が表示している，信頼のマークです。

MASter of PROduction
生産の覇者

地上ディジタル放送に対応

UHF自動利得調整機能付 (特許出願中)

マスプロ独自のUHF自動利得調整回路により，地上ディジタル放送移行期で，送信出力レベルが段階的に上がったときでも，ブースターの利得再調整が不要です。

余裕のある高出力

UHFは，アナログ7波⊕ディジタル9波で103dBμの高い出力レベルが得られますから，伝送波数の多い地域で使用しても，障害のないきれいな画像で受信できます。また，地上ディジタル放送移行期のUHF多チャンネル受信にも対応できます。

優れたシールド性能 (特許出願中)

増幅部，電源部とも高周波部分を金属ケースでシールドし，入・出力端子には，F型コネクターを使用していますから，外来電波による妨害を防ぐことができます。

優れた機能

VU混合・別入力両用

VU混合入力・別入力の切換えができますから，ミキサー内蔵アンテナやVUミキサーを使用した，VU混合入力の場合でも使用できます。

FMカットスイッチ (VUB33AG)

FM放送帯域をスイッチで「増幅」または「カット」できますから，FM電波の強い地域でもテレビの受信障害はありません。

●ご使用の前に，この「取扱説明書」と「安全上のご注意」「ブースター使用上のご注意」をよくお読みください。
●お読みになったあとは，保存してください。

ご注意

UHFの入力レベルが76dBμを超えるときは，別売のアッテネーターATT1.5，3，6，10，15，20を使用して，76dBμ以下になるようにしてください。
入力レベルが76dBμを超えると，UHF自動利得調整機能の作動範囲が狭くなり，地上ディジタル放送移行期で，送信出力レベルが上がった場合，ブースターの定格出力を超えることがあります。

電源部の壁面取付寸法（原寸）

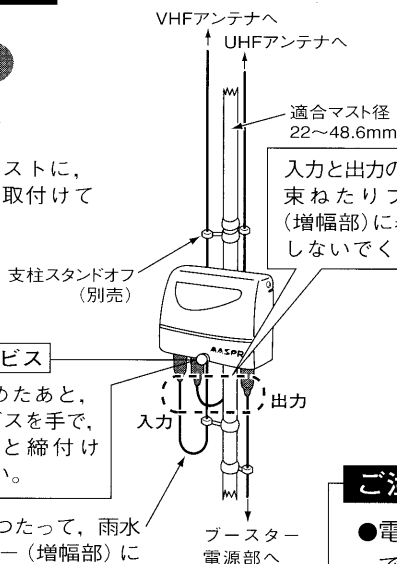
取付方法

増幅部

●マスト

アンテナマストに、図のように取付けてください。

VHFアンテナへ
UHFアンテナへ
適合マスト径 22〜48.6mm

入力と出力のケーブルは、束ねたりブースター（増幅部）に巻付けたりしないでください。

支柱スタンドオフ（別売）

フタ固定ビス

フタを閉めたあと、必ず固定ビスを手で、しっかりと締付けてください。

入力
出力

ケーブルをつたって、雨水がブースター（増幅部）に入らないよう、ケーブルをU字形に配線してください。また、別売の**支柱スタンドオフ**を使用して、ケーブルをマストから離してください。

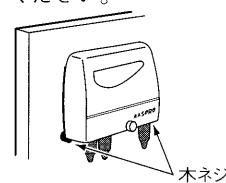
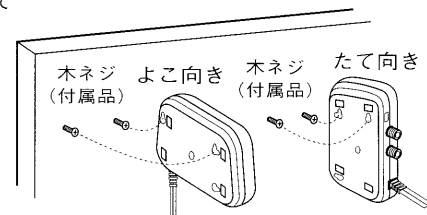
ブースター電源部へ

電源部

●板壁面

板壁面にも取付けることができます。

ケースについている木ネジ（2本）で、板壁面に固定してください。

木ネジ

ご注意

- ●電源部をAMラジオの近くに置くと、ラジオに雑音が入ることがあります。できるだけ、ラジオと電源部を離した状態でお使いください。
- ●電源部は、温度上昇を防ぐため、風通しのよい場所に設置してください。また、長期間ご使用にならないときは、ACプラグをACコンセントから抜いてください。

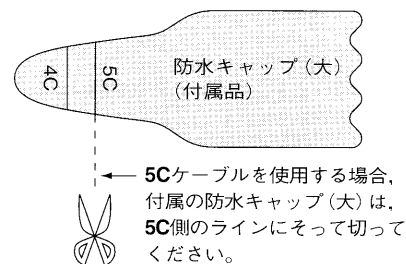
ブースターは，正しくお使いください

ブースターを正しく取付けないと，ブースターが発振して，ご自宅やご近所のテレビの映りが悪くなることがあります。

- ●入力端子・出力端子の配線は，取扱説明書にしたがって，正しく接続してください。
- ●入力と出力のケーブルは，束ねたりブースターに巻付けたりしないでください。
- ●アンテナマストに取付ける場合，VHF・UHFアンテナとブースター（増幅部）の間隔を1m以上離してください。

詳しくは，別紙「ブースター使用上のご注意」をお読みください。

防水キャップの加工方法

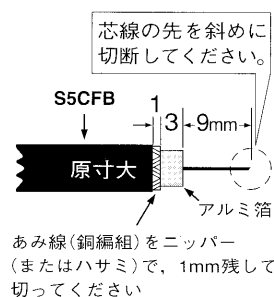
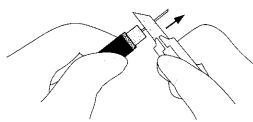
5Cケーブルを使用する場合，付属の防水キャップ（大）は，**5C**側のラインにそって切ってください。

F型コネクター（FP5）の取付方法

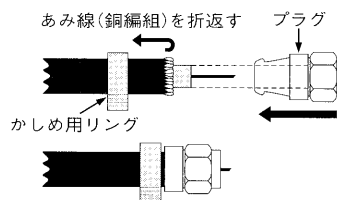
- ●加工する前に，ケーブルを付属の防水キャップ（大）に通してください。
- ●接触不良やショートを防ぐため，プラグはていねいに取付けてください。

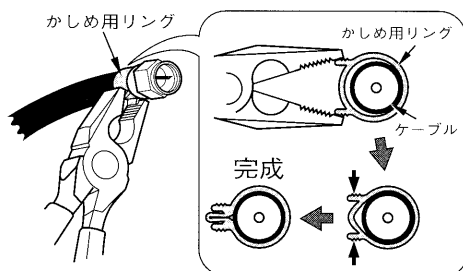
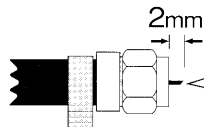
①ケーブルの加工

芯線の先を斜めに切断してください。

S5CFB
1
3
9mm
原寸大
アルミ箔

あみ線（銅編組）をニッパー（またはハサミ）で，1mm残して切ってください

②芯線には白い膜が付いています。導通を良くするために，必ず除去いてください。

③プラグの取付

1. かしめ用リングに，ケーブルを通してください。
2. あみ線（銅編組）を折返してください。
3. プラグを強く押込んでください。

④かしめ用リングをペンチで圧着

プラグが抜けないように，プラグの根元でしっかりと圧着してください。

完成図

芯線が長すぎると，コネクターが破損して機器が故障します。

芯線の長さは，必ず2 mmにしてください。

芯線は，まっすぐにしてください。

芯線が曲がっていると，ショートして，機器が故障します。

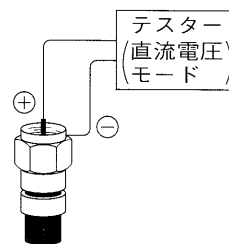
よい画質が得られないときは

●各アンテナからのケーブルが，それぞれの入力端子に正しく接続してあることを，もう一度確認してください。

●電源部の電源表示灯は点灯していますか。

（電源部の入力端子Ⓓがショートしていると過電流保護回路が作動して，電源表示灯が消えます。電源スイッチを「**OFF**」にして，原因を取除き，再度「**ON**」にしてください。）

●ブースターに，DC15Vが供給されているか確認してください。増幅部の出力端子Ⓒに接続するケーブルのF型コネクターにテスターを接続して確認してください。

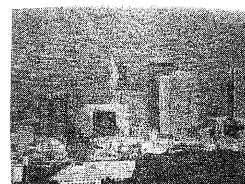
●各ケーブルが，断線またはショートしていないか確認してください。

VHF・UHF（アナログ放送）の場合

画像が出ない場合，スノーノイズが出る場合

スノーノイズ

● VU入力切換スイッチが，正しく操作してあるか確認してください。

● VHFの場合，FM・Vの利得調整ツマミを㊨にゆっくり回してください。（**VUB33AG**）

● UHFの場合，UHF自動利得調整機能スイッチを「**OFF**」にしてください。

画面にビート縞やワイパー現象が出る場合

ビート縞

●他の電波と混信していないかを確認してください。（外部からの混信電波を止める以外に方法はありません）
画質が最もよくなるように，各アンテナの方向を調整してください。

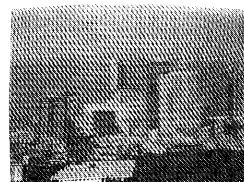
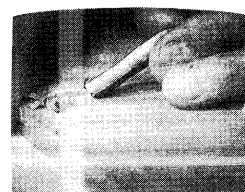
●ch1～3の画面に障害が出るときは，FMカットスイッチを「**カット**」へ切換えてください。（**VUB33AG**）

● VHF入力レベルが69～79dBμの場合，FM・Vの利得調整ツマミを㊧へゆっくり回してください。（**VUB33AG**）

●VHFの入力レベルが79dBμを超える場合，VHF入力端子に，別売のアッテネーター **ATT1.5, 3, 6, 10, 15, 20** を接続して入力レベルを79dBμ以下にしてください。（**VUB33AG**）

ワイパー現象

● UHFの入力レベルが76dBμを超える場合，UHF入力端子に，別売のアッテネーター **ATT1.5, 3, 6, 10, 15, 20** を接続して入力レベルを76dBμ以下にしてください。

●テレビのUHFの入力レベルが高い場合，UHFの利得（出力）調整ツマミを㊧へゆっくり回してください。

UHF（地上ディジタル放送）の場合

画像が出ない場合，モザイク状のノイズが出る場合

モザイク状のノイズ

●UHFの入力レベルが低い場合，UHF自動利得調整機能スイッチを「**OFF**」にしてください。

●UHFの入力レベルが76dBμを超える場合，UHF入力端子に，別売のアッテネーター **ATT1.5, 3, 6, 10, 15, 20** を接続して入力レベルを76dBμ以下にしてください。

●ディジタルチューナーのUHFの入力レベルが高い場合，UHFの利得（出力）調整ツマミを㊧へゆっくり回してください。

使用例

4端子の場合

UHF

VHF

ブースター（増幅部）
VUB33AG
または
UB33AG

VU入力切換を
「V・U 別入力」
にします。

DC15V

電源挿入型テレビ端子からのケーブルは、
必ず電流通過端子に接続してください。

4分配器
4SPF

DC15V

テレビ端子
（電源挿入型）
DFMTD

DFMT

DFMT

テレビ端子
DFMT

赤い端子

ブースター（電源部）

AC100V

DC15V

VU（アナログ放送）

テレビ

2分配器
2SPF

U

地上・BS・110˚CS
ディジタルチューナー

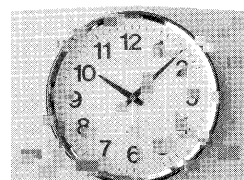
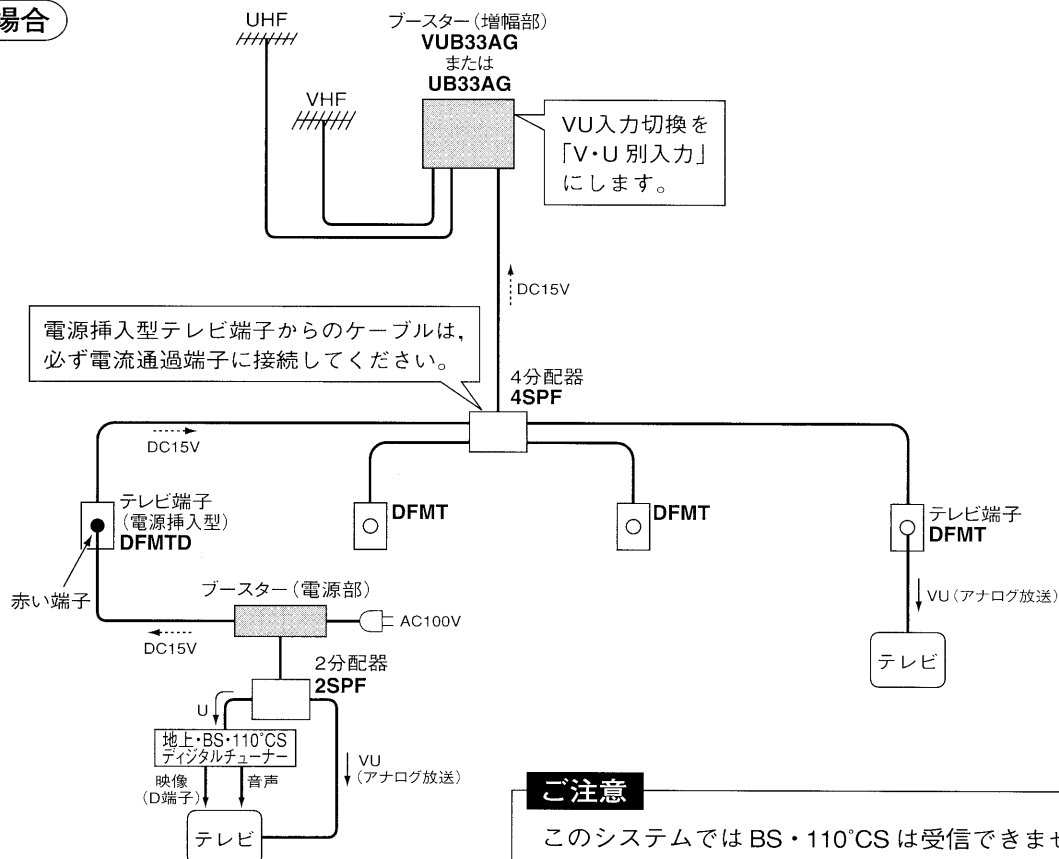
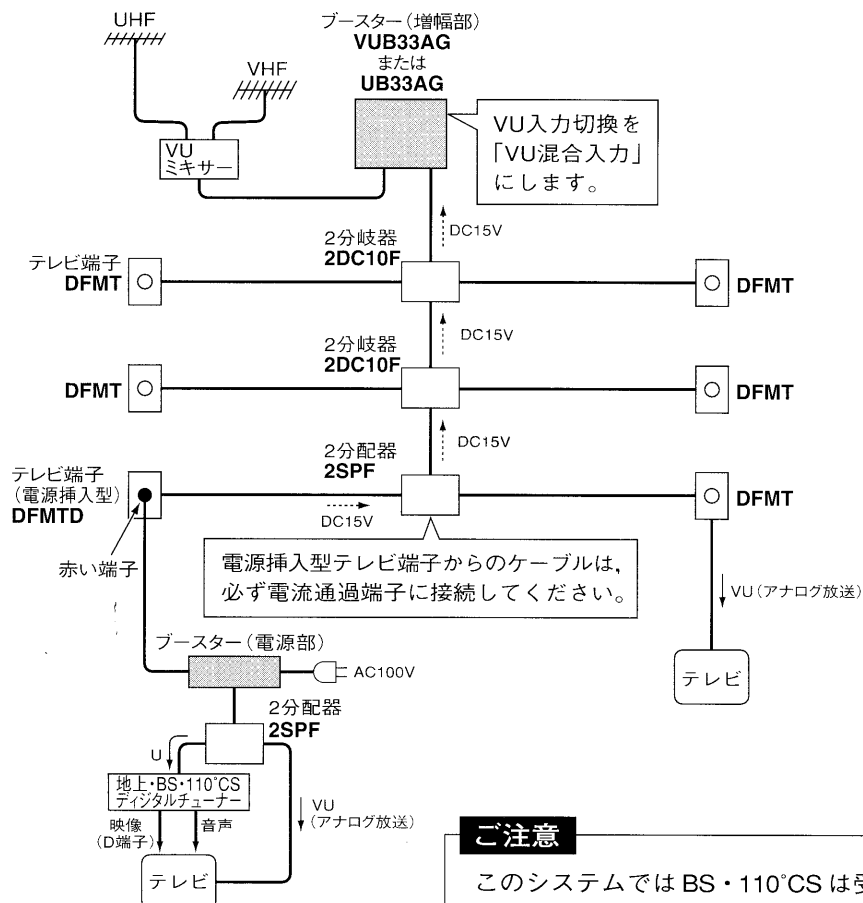
映像
（D端子）

音声

VU
（アナログ放送）

テレビ

ご注意

このシステムでは BS・110˚CS は受信できません。

6端子の場合

規格表 （電気的特性は，JEITA表示法による）

VUB33AG

増幅部

MASPRO

項目	規格		
伝送周波数帯域	76～108MHz（FM・ch1～3）	170～222MHz（ch4～12）	470～770MHz（ch13～62）
利得	25～31dB		26～35dB
利得偏差（P/V）	3dB以内		5dB以内
利得調整範囲	0～⊖10dB以上（連続可変）		——
利得（出力レベル）調整範囲	——		0～⊖10dB以上（連続可変）
雑音指数	1.5～3.5dB	1.5～4dB	1.5～3dB（1.5～6dB※1）
実用入力レベル	35.5（がまん限）～69dBμ（79dBμ※2）	36（がまん限）～69dBμ（79dBμ※2）	35（がまん限）～76dBμ [38（がまん限）～86dBμ※1] ※3
定格出力レベル	100dBμ（7波）		111※3／103dBμ※4
混変調／相互変調	⊖46dB以下／⊖53dB以下		⊖46dB以下／—
VSWR	3以下		
入・出力インピーダンス	75Ω（F型コネクター）		
電源	DC15V　0.13A		
使用温度範囲	⊖20～⊕40℃		
外観寸法	135（H）×148（W）×60（D）mm		
質量（重量）	約 430 g		
シンボル	▷		

実用入力レベルの最小値（がまん限）は，スノーノイズを完全に除去できませんが，実用になる限界です。
※1 UHF自動利得調整機能ONのときの値です。
※2 利得を最小（利得を㊧へいっぱいに回した状態）にしたときの，最大の実用入力レベルです。
※3 アナログ2波⊕ディジタル9波の値です。（ディジタル波の信号レベルが，アナログ波より10dB低い場合）
※4 アナログ7波⊕ディジタル9波の値です。（ディジタル波の信号レベルが，アナログ波より10dB低い場合）

電源部

MASPRO

項目	規格
1次電圧	AC100V　50・60Hz
消費電力	2.9W
直流出力電圧・電流	DC15V（最大 0.4A）
入・出力インピーダンス	75Ω（F型コネクター）
挿入損失	0.2～2dB
使用温度範囲	0～⊕40℃
外観寸法	40（H）×124（W）×99（D）mm
質量（重量）	約240g

付属品

F型コネクター（5Cケーブル用）……5個
防水キャップ（大）………………3個
防水キャップ
（小，VHF入力端子用）………1個
木ネジ（3×15mm，電源部取付用）……2本

UB33AG

増幅部

MASPRO

項目	規格	
伝送周波数帯域	470～770MHz（ch13～62）	76～222MHz（FM・ch1～12）
利得	26～35dB	——
通過帯域損失	——	0.5～1.5dB
利得偏差（P/V）	5dB以内	——
利得（出力レベル）調整範囲	0～⊖10dB以上（連続可変）	
雑音指数	1.5～3dB（1.5～6dB※1）	
実用入力レベル	35（がまん限）～76dBμ [38（がまん限）～86dBμ※1] ※2	
定格出力レベル	111※2／103dBμ※3	
混変調	⊖46dB以下	
VSWR	3以下	
入・出力インピーダンス	75Ω（F型コネクター）	
電源	DC15V　0.11A	
使用温度範囲	⊖20～⊕40℃	
外観寸法	135（H）×148（W）×60（D）mm	
質量（重量）	約 420 g	
シンボル	▷	

実用入力レベルの最小値（がまん限）は，スノーノイズを完全に除去できませんが，実用になる限界です。
※1 UHF自動利得調整機能ONのときの値です。
※2 アナログ2波⊕ディジタル9波の値です。（ディジタル波の信号レベルが，アナログ波より10dB低い場合）
※3 アナログ7波⊕ディジタル9波の値です。（ディジタル波の信号レベルが，アナログ波より10dB低い場合）

電源部

MASPRO

項目	規格
1次電圧	AC100V　50・60Hz
消費電力	2.5W
直流出力電圧・電流	DC15V（最大 0.4A）
入・出力インピーダンス	75Ω（F型コネクター）
挿入損失	0.2～2dB
使用温度範囲	0～⊕40℃
外観寸法	40（H）×124（W）×99（D）mm
質量（重量）	約240g

付属品

F型コネクター（5Cケーブル用）……5個
防水キャップ（大）………………3個
防水キャップ
（小，VHF入力端子用）………1個
木ネジ（3×15mm，電源部取付用）……2本

マスプロの規格表に絶対うそはありません。
ご理解と信頼あるデータにご期待ください。

MASter of PROduction 生産の覇者

製品向上のため 仕様・外観は変更することがあります。

マルチメディアの
＝マスプロ電工＝

本社 〒470-0194（本社専用番号）愛知県日進市浅田町
営業部 TEL 名古屋（052）802-2244
技術相談 〃 （052）805-3366
インターネットホームページ www.maspro.co.jp

支店・営業所
沖縄 (098)854-2768
鹿児島 (099)812-1200
宮崎 (0985)25-3877
熊本 (096)381-7626
長崎 (095)864-6001
福岡(支)(092)531-3861
北九州 (093)941-4026
下関 (0832)55-1130
広島 (082)230-2351
松江 (0852)21-5341
岡山 (086)252-5800
松山 (089)973-5656
高知 (088)882-0991
高松 (087)865-3666
姫路 (0792)34-6669
神戸 (078)843-3200
大阪(支)(06)6635-2222
工事営業部(06)6632-1144
京都 (075)646-3800
津 (059)234-0261
岐阜 (058)275-0805
名古屋(支)(052)802-2233
工事営業部(052)804-6262
豊橋 (0532)33-1500
静岡 (054)283-2220
松本 (0263)57-4625
福井 (0776)23-8153
金沢 (076)249-5301
新潟 (025)287-3155
横浜 (045)784-1422
渋谷(支)(03)3409-5505
工事営業部(03)3499-5631
青戸 (03)3695-1811
八王子 (0426)37-1699
千葉 (043)232-5335
さいたま (048)663-8000
前橋 (027)263-3767
水戸 (029)248-3870
宇都宮 (028)660-5008
郡山 (024)952-0095
仙台 (022)786-5060
盛岡 (019)641-1681
秋田 (018)862-7523
青森 (017)742-4227
函館 (0138)53-7355
札幌 (011)782-0711
釧路 (0154)23-8466
旭川 (0166)25-3111
北見 (0157)36-6606

2K55-578
N-41-4578-1L
JAN., 2004